

海のそなえプロジェクト

- 2026年度 水難事故に関する夏季報道調査結果[速報] -



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海のそなえ
プロジェクト

2026年度 調査概要

調査期間	2026年4月25日～5月6日(GW), 2026年6月1日～9月30日
事故対象	■ 上記期間内に起きた海辺・水辺の溺れ事故[水難事故] ■ 二次溺水(Ex. 車転落による溺水, 船転覆による溺水), 自力帰還は対象 ■ 自殺, 災害は対象外
溺水定義	意識あり(生存), 帰還不能, 意識不明, 死亡, 行方不明
対象水域	沖合, 海岸, 港・漁港, 河川, 湖沼池, プール, その他(ダム, 用水路等)
対象範囲	日本全国
調査方法	■ 全国紙, 地方紙のデジタル新聞, 全国紙データベース, 地方紙収集サイト, 放送局オンラインニュースにて溺水事故に関する記事を収集. ■ 「溺れ」「溺水」「溺死」「行方不明」「水難」「おぼれ」の6つの検索ワードを用いて, 毎日検索し収集. ■ データ入力システムを用いて, 9名の調査員によるデータの入力, 確認, 集計を実施.
調査協力	中央大学研究開発機構



Fig. 1.1 2026年報道調査 夏季水難事故 公開サイト

<https://umisonae.jla-lifesaving.or.jp/media-research/#lifesaver>

[1] 2026年夏季速報値(2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故)

2026年夏季の調査結果では、報道された全国の水難事故は212件、水難者数は266人であった。
死者・行方不明者が約7割を占める。水難事故の発生場所は海岸が多く(46%)、海域(沖合、海岸、港・漁港)が6割を占める。

溺水事故件数: 212件 溺水事故者数: 266人 (9/6 現在)

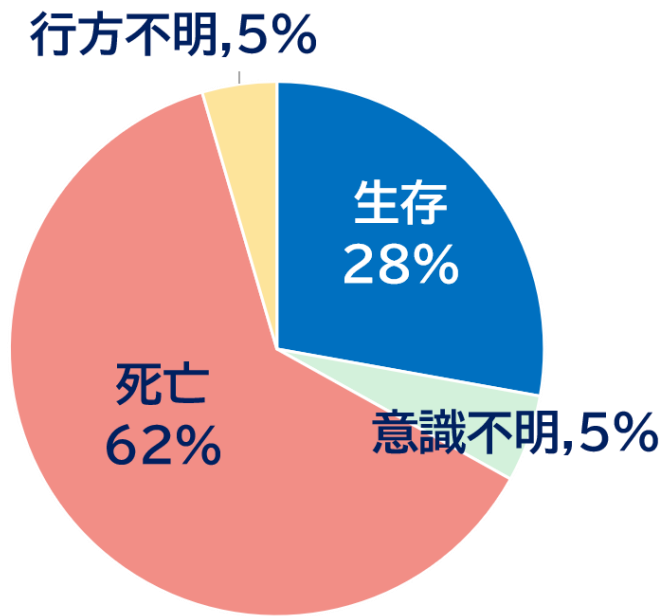


Fig. 1.2 水難事故の内訳
[生存, 意識不明, 死亡, 行方不明]

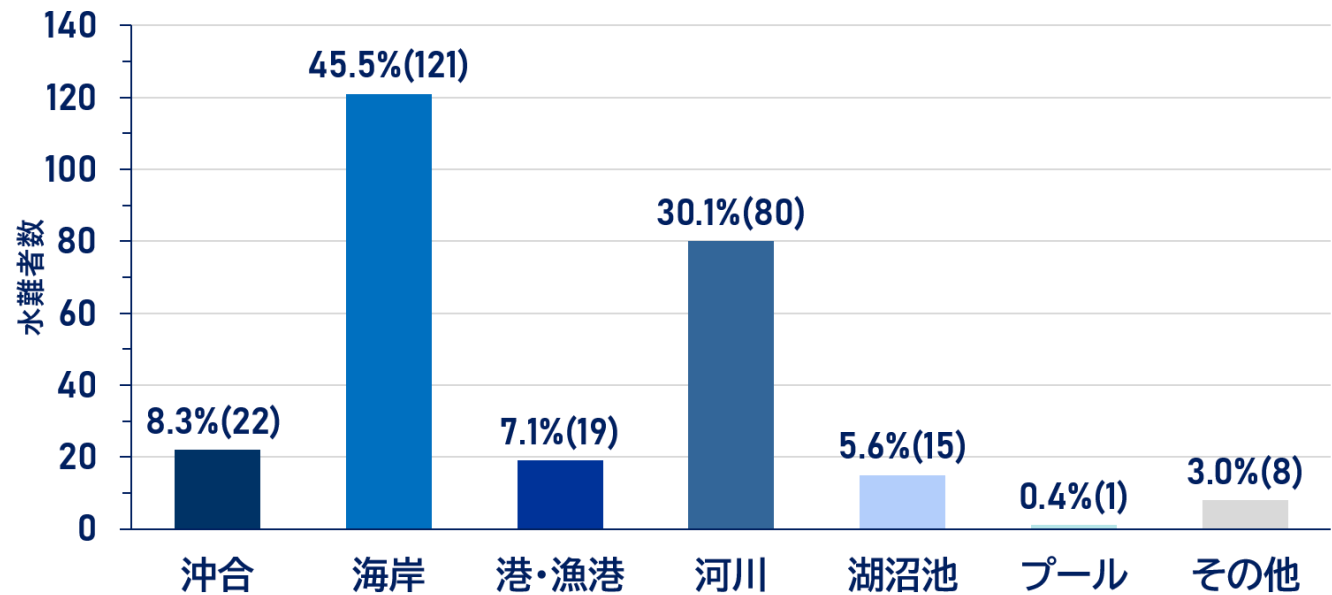


Fig. 1.3 水難事故の発生場所

[1] 2026年夏季速報値(2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故)

男性は女性の約5倍で、男性が多い(82%).
年齢別では10代が最も多く(20%), 次いで70代が多い(14%).

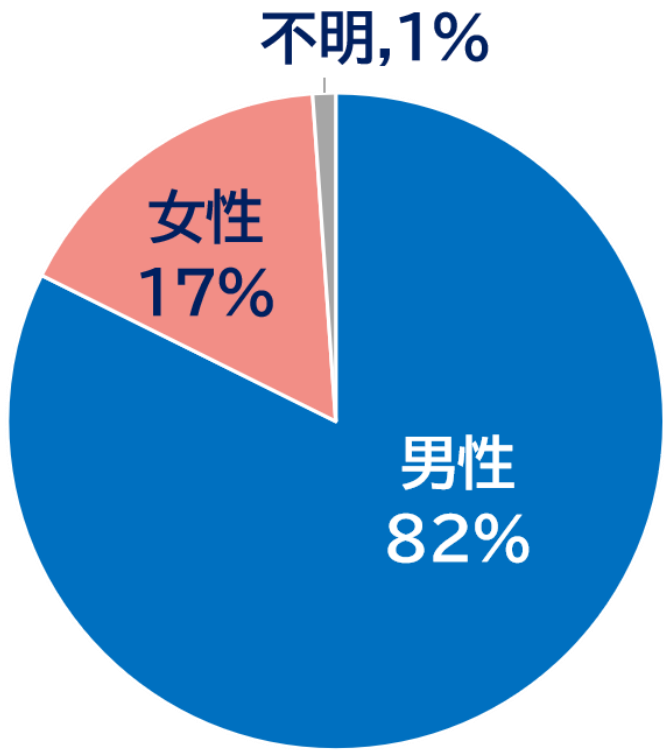


Fig. 1.4 水難事故者の性別

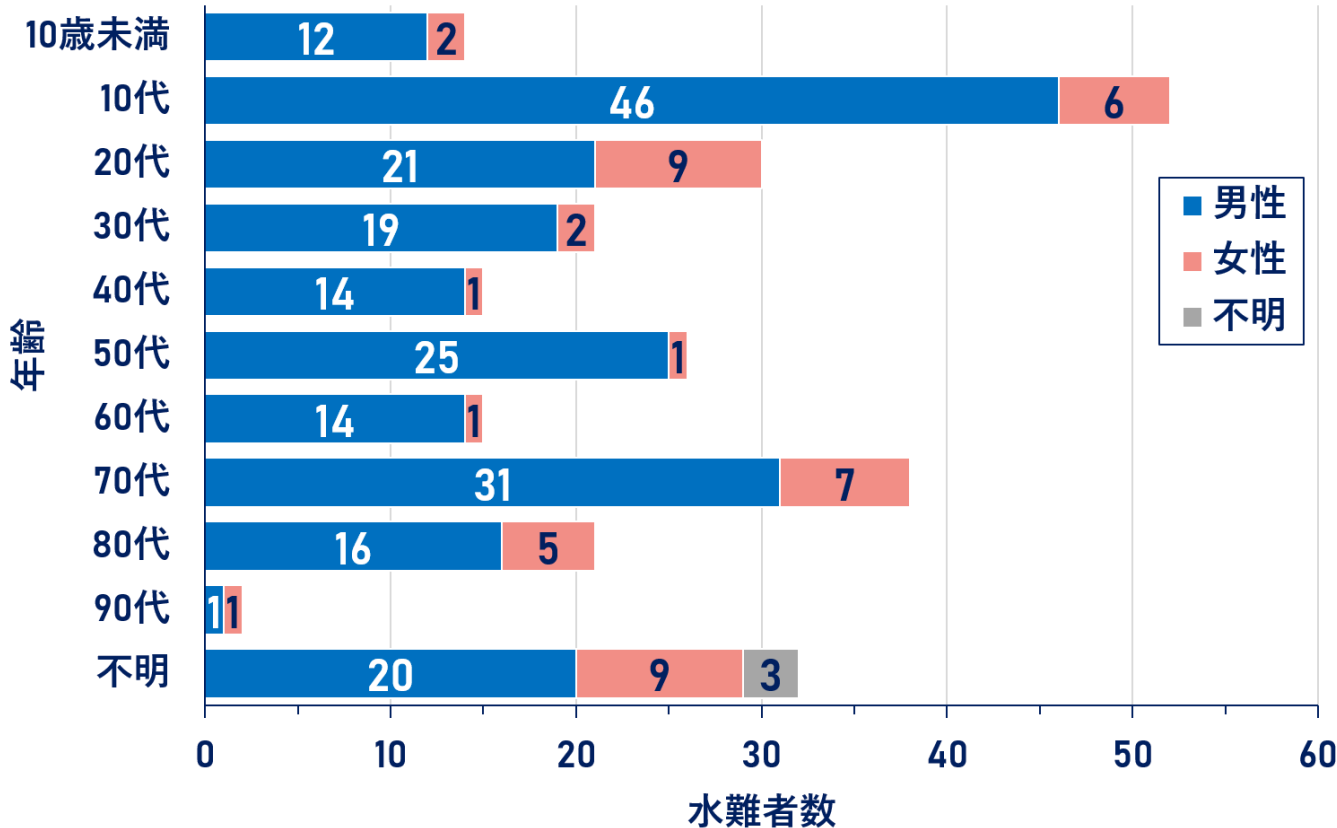


Fig. 1.5 水難事故者の年齢

[1] 2026年夏季速報値(2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故)

水難事故発生前の行為は、遊泳が最も多く(25%)、次いで水遊び(14%)、釣り(10%)であった。

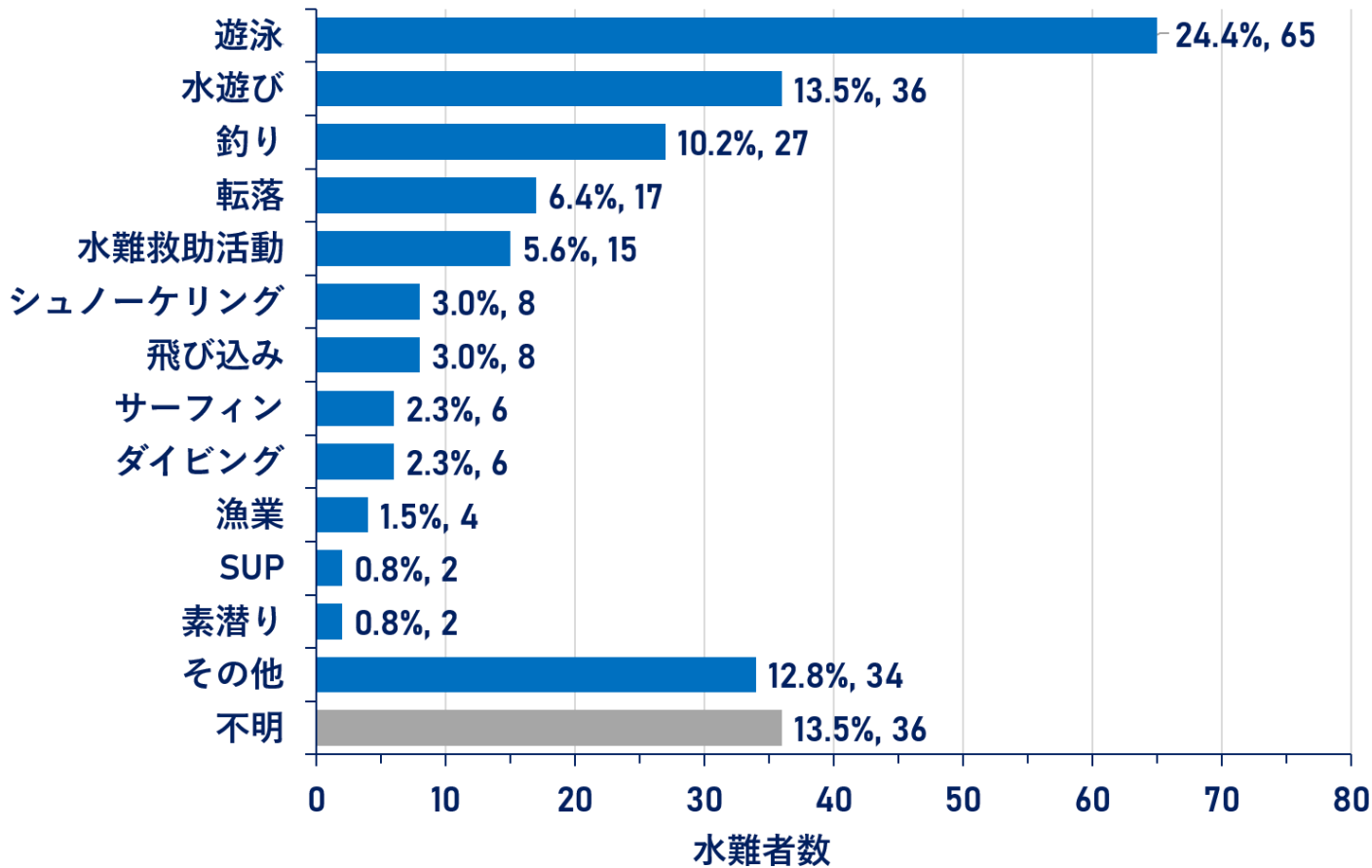


Fig. 1.6 溺水事故発生前の行為

[1] 2026年夏季速報値（2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故）

水難者の利用状況は、**複数利用**が多く占めていた(69%).
水難事故の発生時刻は**午後**が多い(56%). **外国人は13%**占めていた.

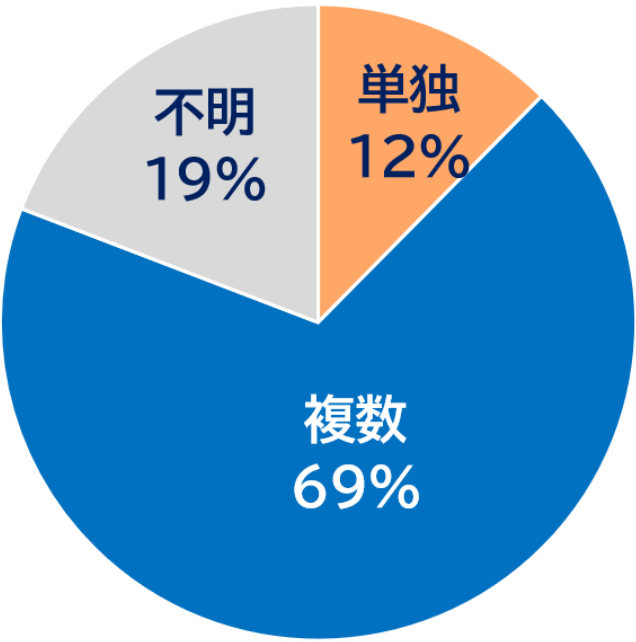


Fig. 1.7 水難事故者の利用状況

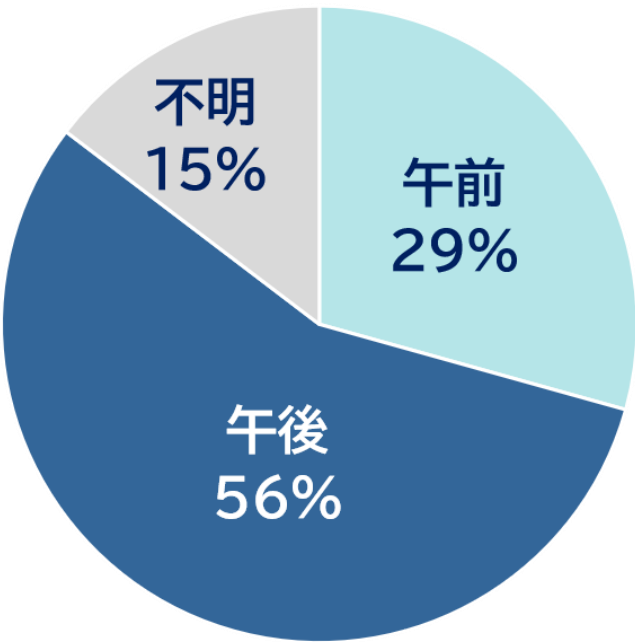


Fig. 1.8 水難事故の発生時刻(時間帯)

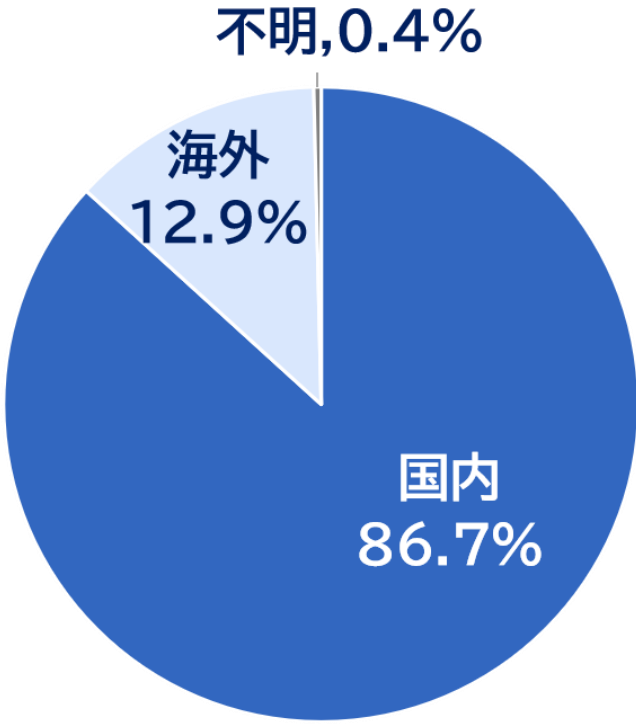


Fig. 1.9 水難者の国籍

[1] 2026年夏季速報値（2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故）

水難事故が多かった10代, 70代に関して, 10代は海岸(56%), 河川(37%), 70代は河川(42%), 海岸(26%)での事故が多い。
10代-60代は海岸での事故が多いが, 10歳未満70代80代は河川での事故が多い。年代によって特徴が異なる。

Table 1 年代別による水域の割合

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明
沖合	0%	0%	10%	14%	20%	15%	13%	5%	14%	0%	6%
海岸	29%	56%	47%	67%	60%	50%	47%	26%	10%	50%	56%
港・漁港	7%	4%	0%	10%	0%	15%	7%	11%	19%	0%	3%
河川	36%	37%	33%	10%	20%	19%	13%	42%	38%	0%	31%
湖沼池	21%	2%	10%	0%	0%	0%	13%	8%	10%	0%	3%
プール	7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
その他	0%	2%	0%	0%	0%	0%	7%	8%	10%	50%	0%



2026年度 水難事故に関する夏季報道調査結果[速報]

[1] 2026年夏季速報値（2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故）

10歳未満は水遊び中, 10代-40代, 60代は遊泳中, 50代, 70代-は釣り中の事故が多い.

40代, 50代は水難救助活動中の事故が多く占める.

Table 2 年代別による水難事故発生前の行為の割合

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	不明
遊泳	14%	40%	30%	33%	27%	15%	53%	13%	0%	0%	16%
水遊び	43%	27%	23%	10%	7%	0%	0%	0%	5%	0%	16%
釣り	7%	0%	0%	5%	0%	19%	13%	29%	29%	50%	0%
サーフィン	0%	0%	0%	5%	13%	8%	7%	0%	0%	0%	0%
SUP	0%	0%	7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
シュノーケリング	0%	0%	7%	14%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	3%
ダイビング	0%	0%	3%	5%	7%	8%	7%	0%	0%	0%	0%
飛び込み	0%	8%	10%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%
素潜り	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	5%	0%	0%
漁業	0%	0%	0%	0%	7%	0%	7%	3%	5%	0%	0%
転落	21%	4%	3%	0%	7%	12%	0%	11%	10%	0%	3%
水難救助活動	0%	10%	0%	5%	13%	15%	7%	0%	5%	0%	3%
その他	0%	4%	10%	19%	7%	15%	7%	13%	24%	50%	25%
不明	14%	8%	7%	5%	0%	8%	0%	29%	19%	0%	31%



[1] 2026年夏季速報値（2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故）

水位別の予後の割合では、自然水域内では海岸の生存率が最も高い。
年代別の予後の割合では、10歳未満の生存率が最も高い(93%)。一方、70代以降は生存率が0%であった。

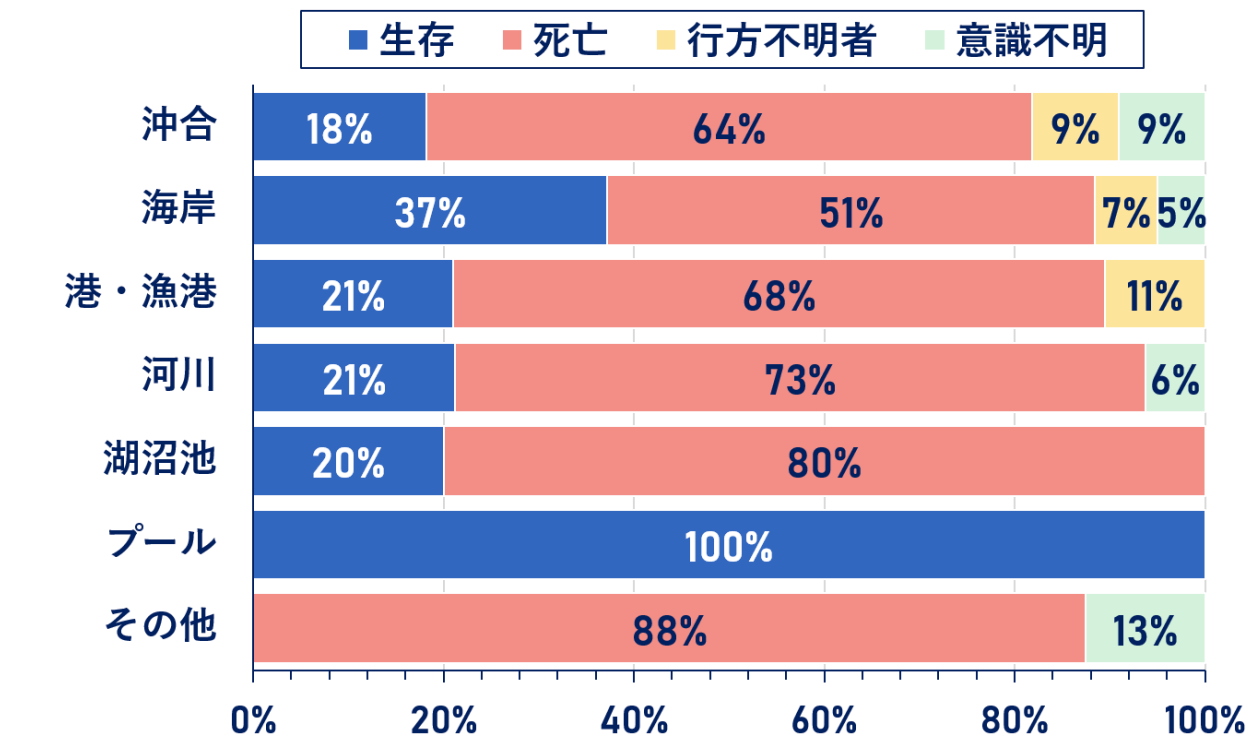


Fig. 1.10 水域別の予後の割合

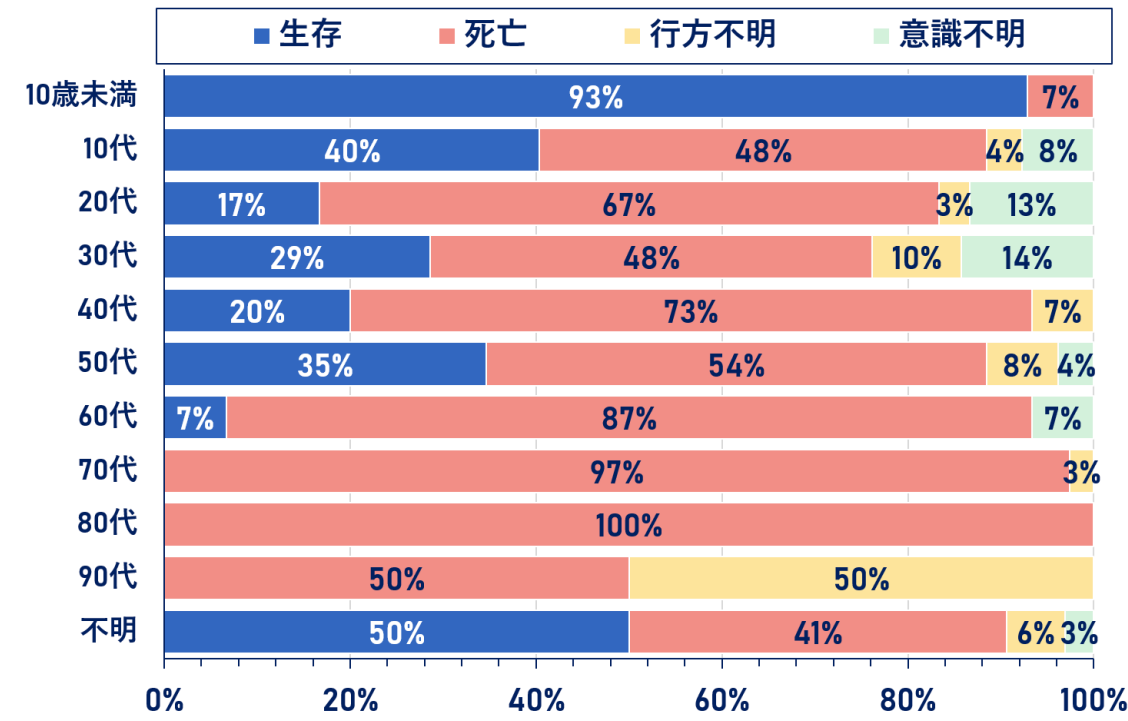


Fig. 1.11 年代別の予後の割合

[1] 2026年夏季速報値（2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故）

行為別の予後の割合では、サーフィン, SUP, 素潜り, 漁業は生存率が0%であった。

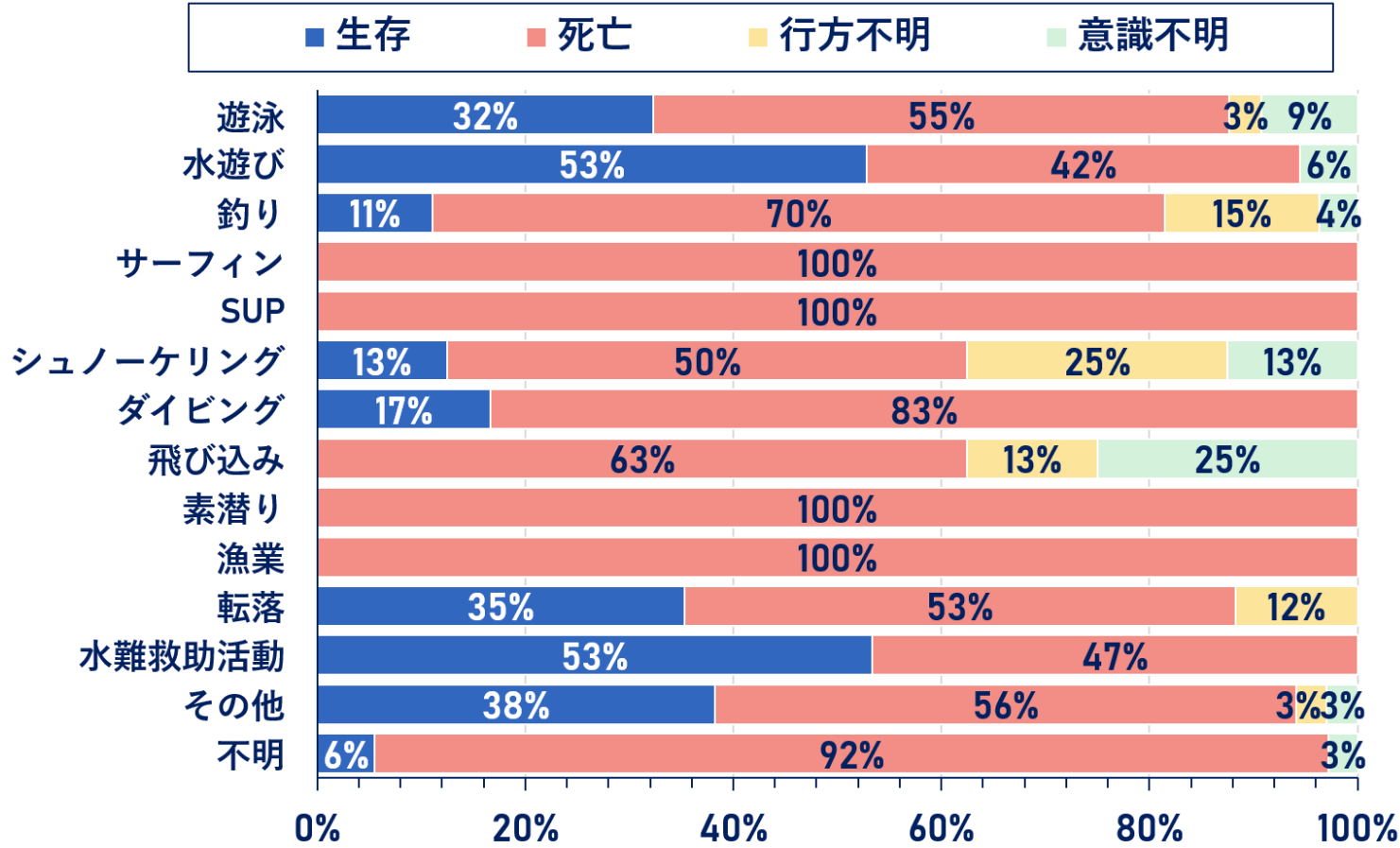


Fig. 1.12 行為別の予後の割合

[1] 2026年夏季速報値（2026年7月1日～8月31日に発生した水難事故）

2026年夏季の調査結果では、報道された全国の水難事故は212件、水難者数は266人であった。

水難者のうち、死者・行方不明者が約7割を占める。

水難事故の発生場所は海岸が多く（46%）、海域（沖合、海岸、港・漁港）が6割を占める。

男性は女性の約5倍で、男性が多い（82%）。

年齢別では10代が最も多く（20%）、次いで70代が多い（14%）。

水難事故発生前の行為は、遊泳が最も多く（25%）、次いで水遊び（14%）、釣り（10%）であった。

水難者の利用状況は、複数利用が多く占めていた（69%）。

水難事故の発生時刻は午後が多い（56%）。外国人は13%占めていた。

水難事故が多かった10代、70代に関して、10代は海岸（56%）、河川（37%）、70代は河川（42%）、海岸（26%）での事故が多い。

10代-60代は海岸での事故が多いが、10歳未満70代80代は河川での事故が多い。年代によって特徴が異なる。

10歳未満は水遊び中、10代-40代、60代は遊泳中、50代、70代-は釣り中の事故が多い。40代、50代は水難救助活動中の事故が多く占める。

水位別の予後の割合では、自然水域内では海岸の生存率が最も高い。

年代別の予後の割合では、10歳未満の生存率が最も高い（93%）。一方、70代以降は生存率が0%であった。

行為別の予後の割合では、サーフィン、SUP、素潜り、漁業は生存率が0%であった。

[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較 (7月, 8月対象)

水難者数は, 2024年は265人, 2025年は269人, 2026年は266人であり, 毎年同程度の数の水難事故が起きている.

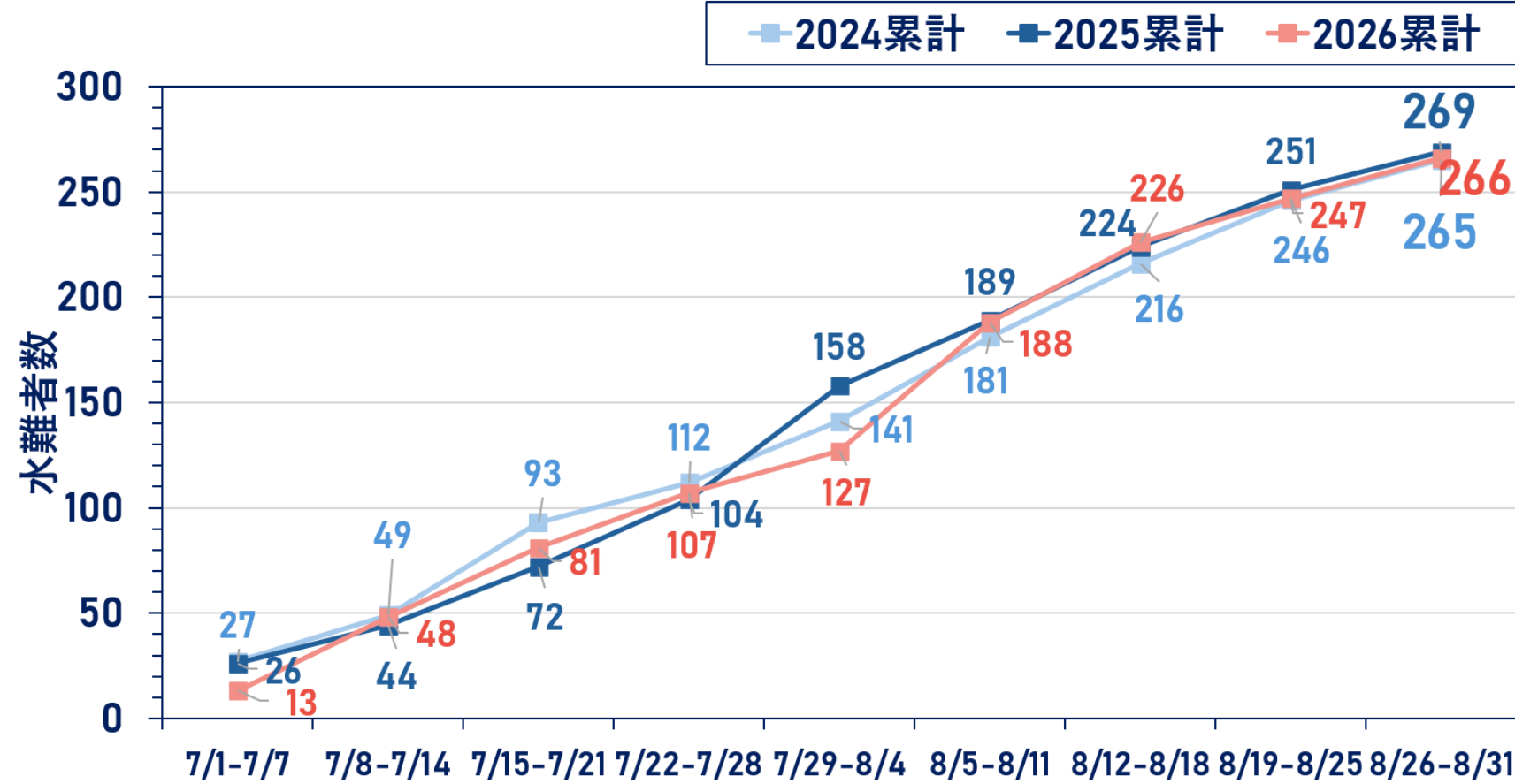
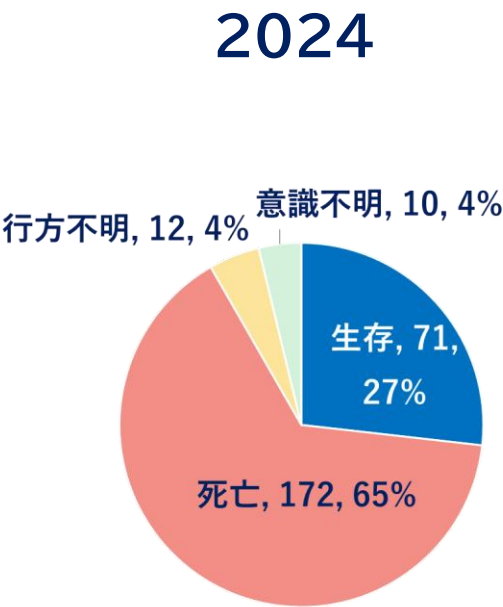


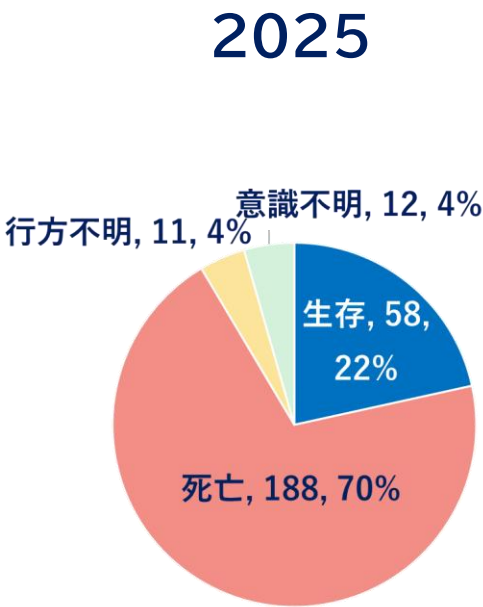
Fig. 2.1 水難事故者数の推移(累計値)

[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較 (7月, 8月対象)

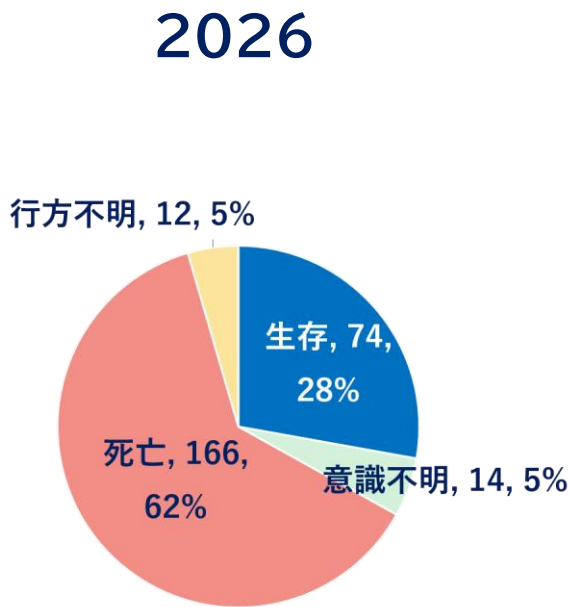
予後は、3カ年ともに、死者・行方不明者が約7割を占める。



死者・行方不明者
69 %



死者・行方不明者
74 %

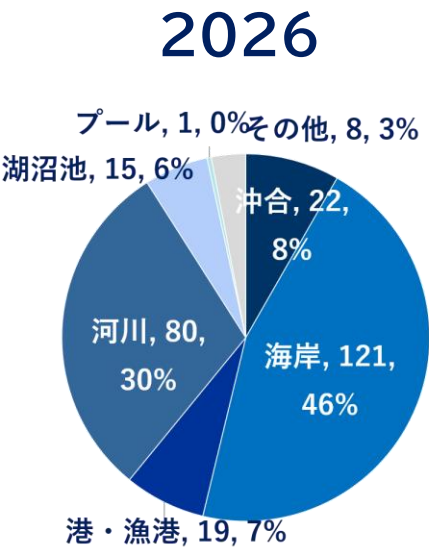
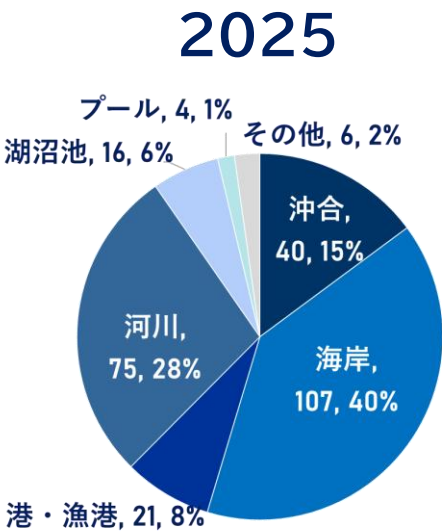
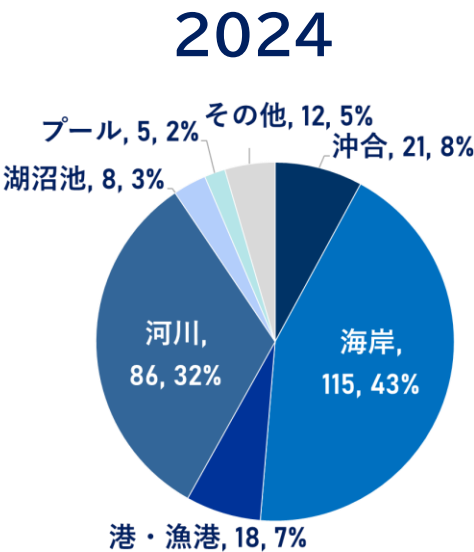


死者・行方不明者
67 %

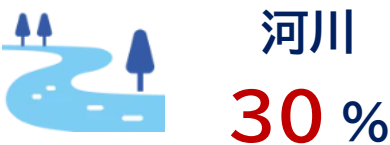
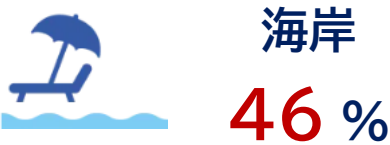
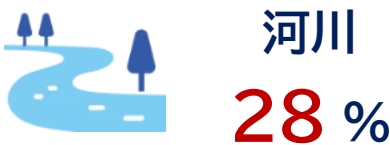
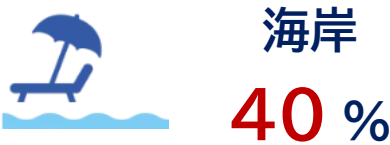
2026年度 水難事故に関する夏季報道調査結果[速報]

[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較（7月, 8月対象）

水域は、3カ年ともに、海岸での事故が最も多く、次いで河川である。



水域 TOP2

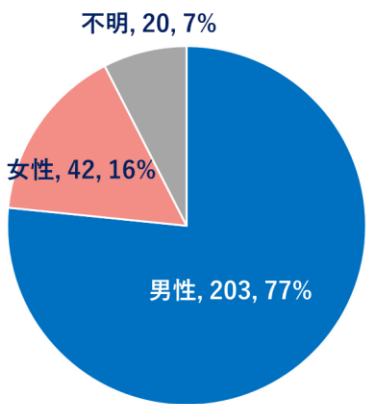


Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較（7月, 8月対象）

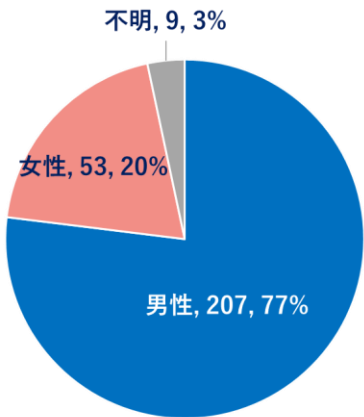
性別は、3カ年ともに、男性の事故が多く、約8割を占める。

2024



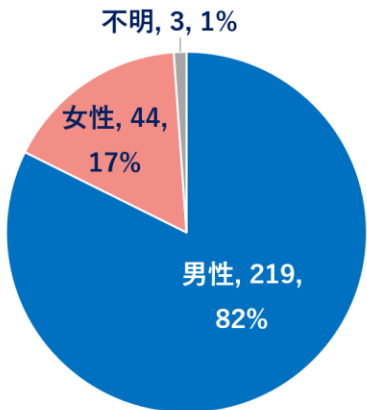
男性
77 %

2025



男性
77 %

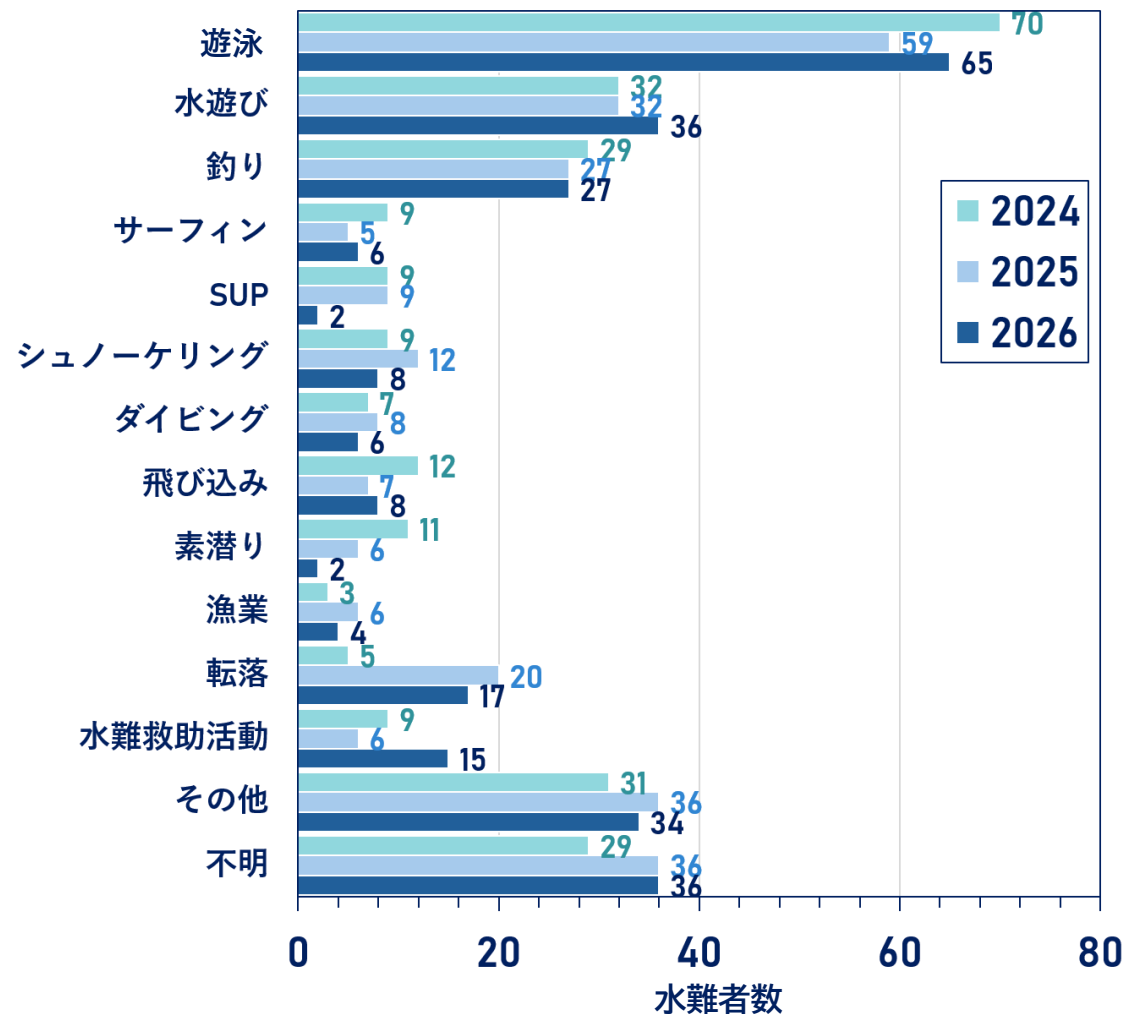
2026



男性
82 %

[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較（7月, 8月対象）

行為は、3カ年ともに、遊泳中の事故が最も多く、次いで水遊び、釣りである。

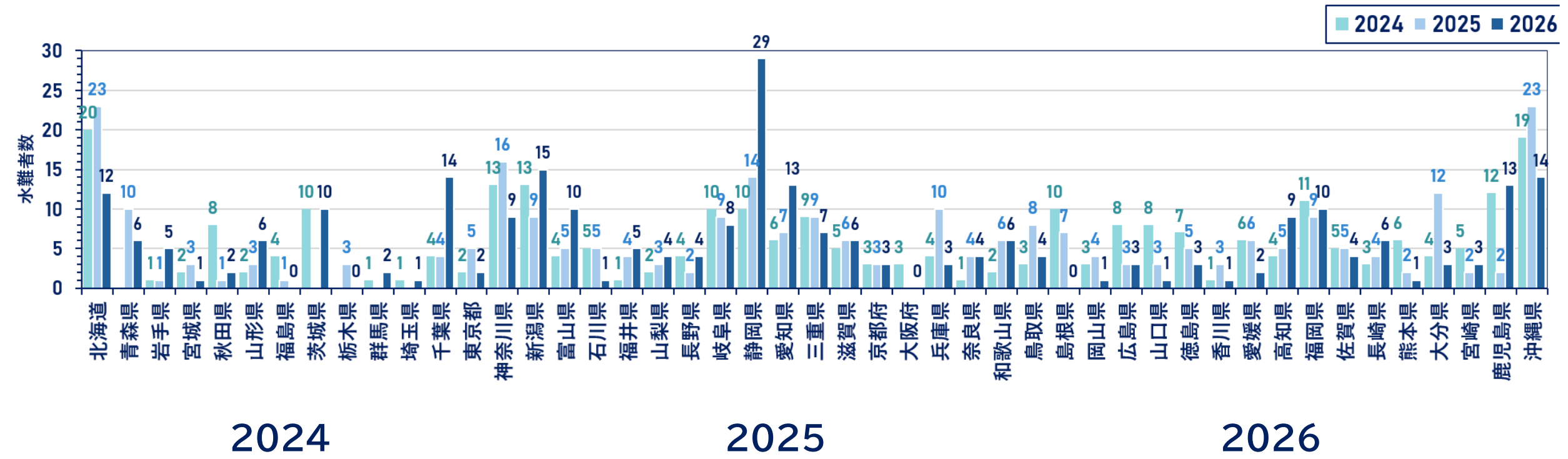


2024, 2025, 2026共通
水難事故時のアクティビティ TOP3



[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較 (7月, 8月対象)

都道府県別では、2024年・2025年では北海道での事故が多く、次いで沖縄県であったが、2026年は静岡県の事故が多く、次いで新潟県であった。



北海道＞沖縄＞他都府県

北海道＞沖縄＞他都府県

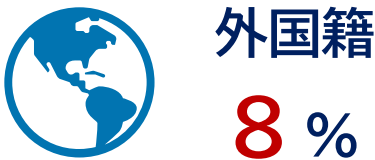
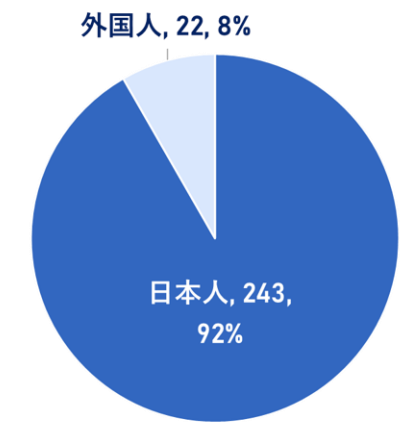
静岡＞新潟＞他都道府県

2026年度 水難事故に関する夏季報道調査結果[速報]

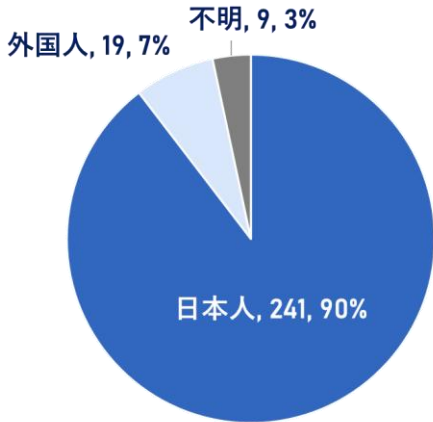
[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較 (7月, 8月対象)

国籍は、3カ年とも、外国籍の事故が約1割を占める。2026年は13%と最も多かった。

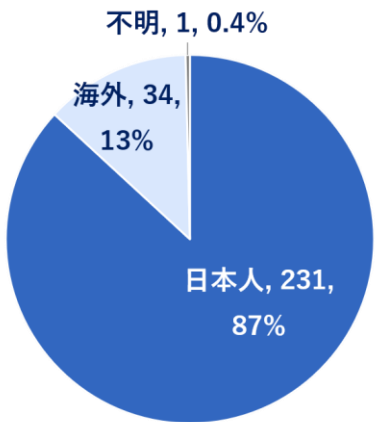
2024



2025



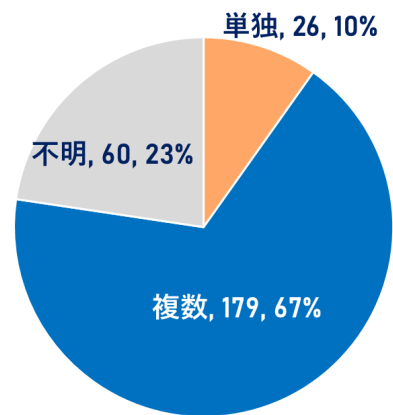
2026



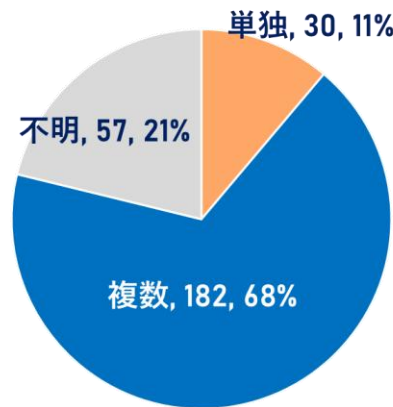
[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較（7月, 8月対象）

利用状況は、3カ年とも、複数利用が多く、約7割を占める。

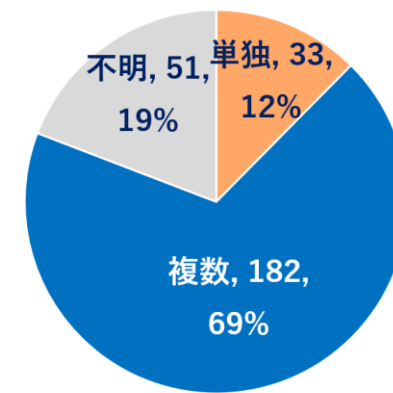
2024



2025



2026



[2] 2024年・2025年・2026年 3カ年比較（7月, 8月対象）

共通事項；

水難者数は、2024年は265人, 2025年は269人, 2026年は266人であり、毎年同程度の数の水難事故が起きている。

予後は、3カ年ともに, 死者・行方不明者が約7割を占める。

水域は、3カ年ともに, 海岸での事故が最も多く, 次いで河川である。

性別は、3カ年ともに, 男性の事故が多く, 約8割を占める。

行為は、3カ年ともに, 遊泳中の事故が最も多く, 次いで水遊び, 釣りである。

国籍は、3カ年とも, 外国籍の事故が約1割を占める。2026年は13%と最も多かった。

利用状況は、3カ年とも, 複数利用が多く, 約7割を占める。

非共通事項；

都道府県別では、2024年・2025年では北海道での事故が多く, 次いで沖縄県であったが, 2026年は静岡県での事故が多く, 次いで新潟県であった。

2026年度 水難事故に関する夏季報道調査結果[速報]

[3] 3カ月比較 (2026年6月, 7月, 8月対象)

水難事故数は、2026年6月は58人、7月は113人、8月は153人であり、8月が最も多い。
水難者数が多かった7/19, 8/9, 8/10, 8/11は、台風の影響により各地で波浪注意報が発報されていた。

6月

水難事故者数: **58**人

7月

水難事故者数: **113**人

8月

水難事故者数: **153**人

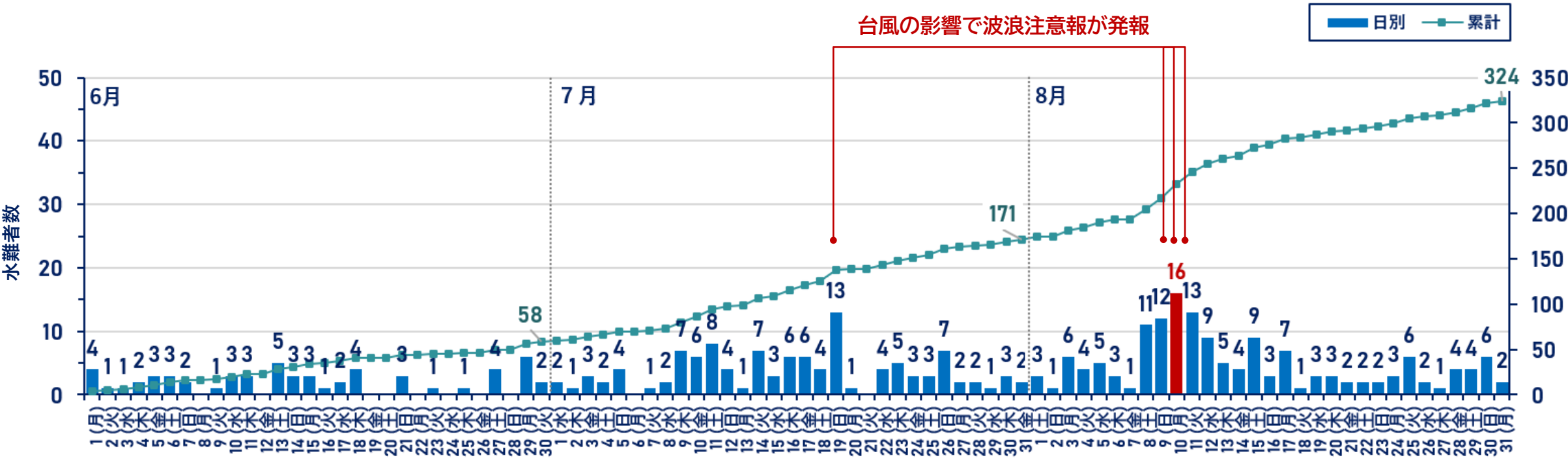


Fig. 3.1 水難事故の予後 [生存, 死亡, 意識不明, 行方不明]

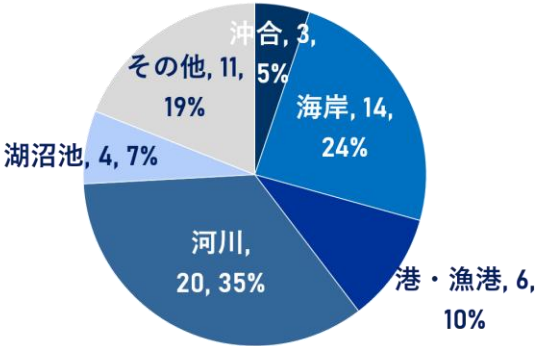


Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

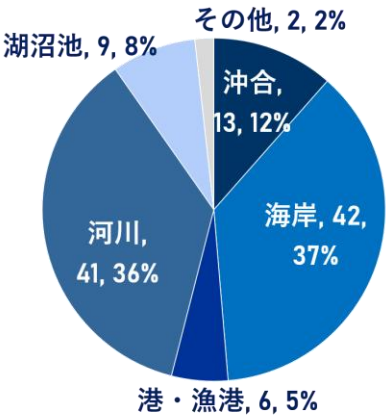
[3] 3カ月比較 (2026年6月, 7月, 8月対象)

水域は、6月は河川が最も多く、次いで海岸、7月・8月は海岸が最も多く、次いで河川であった。

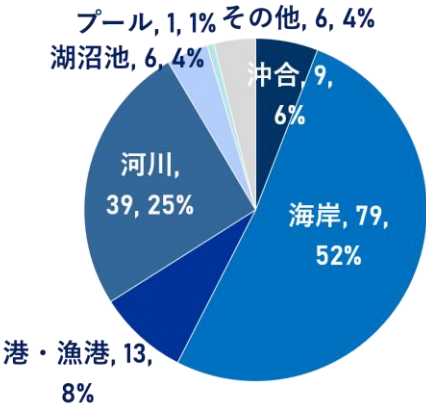
6月



7月



8月



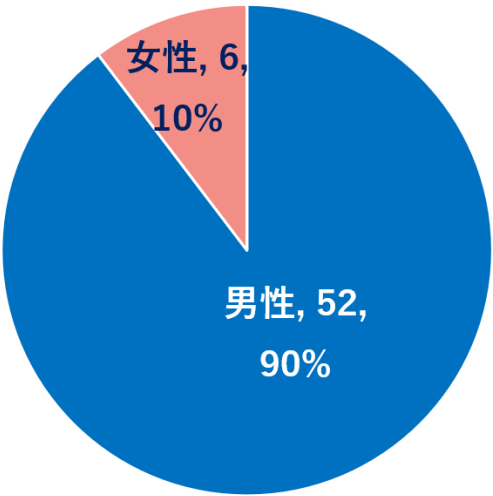
水域 TOP2



[3] 3ヵ月比較 (2026年6月, 7月, 8月対象)

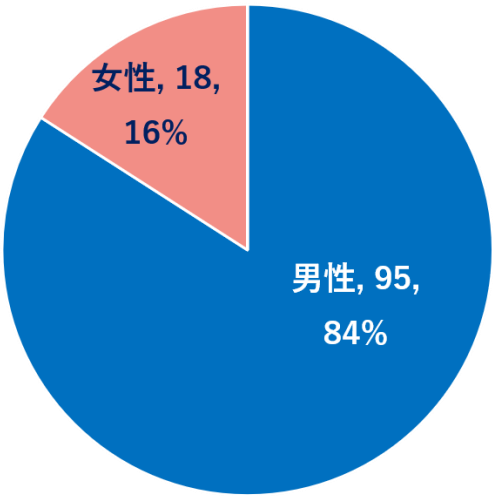
性別は、3か月とも男性の事故が多く、8割以上を占める。

6月



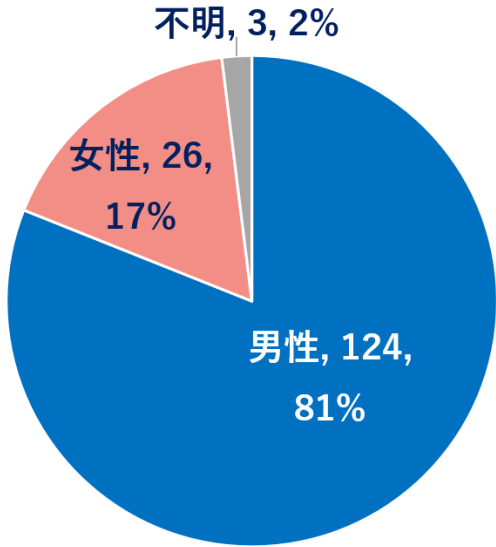
男性
90 %

7月



男性
84 %

8月

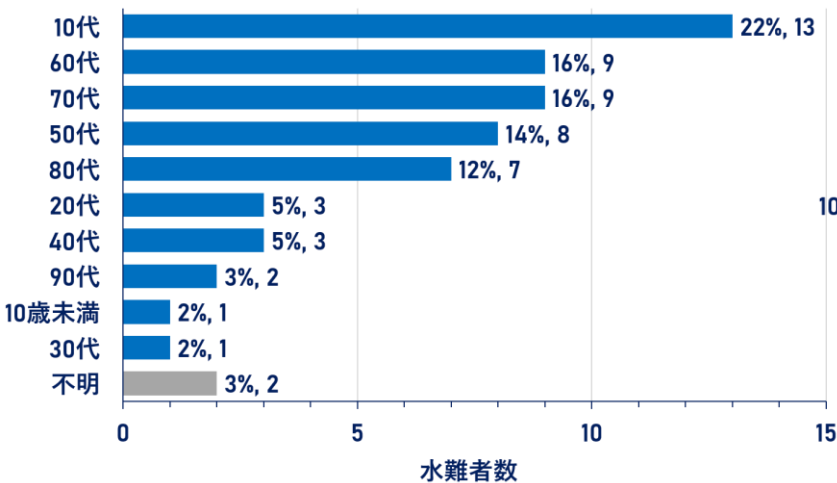


男性
81 %

[3] 3ヵ月比較 (2026年6月, 7月, 8月対象)

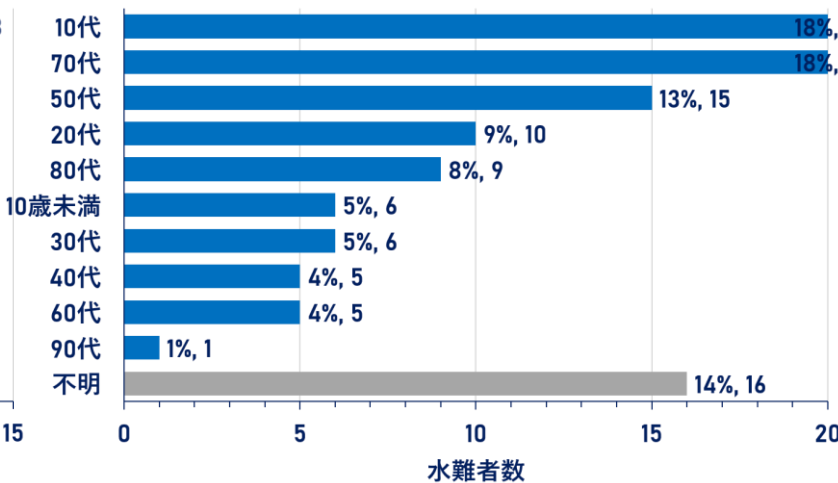
年代は、6月は10代が最も多く、次いで60代、7月は10代・70代が最も多く、次いで50代、8月は10代が最も多く、次いで20代であった。
3か月とも10代の事故が多い。

6月



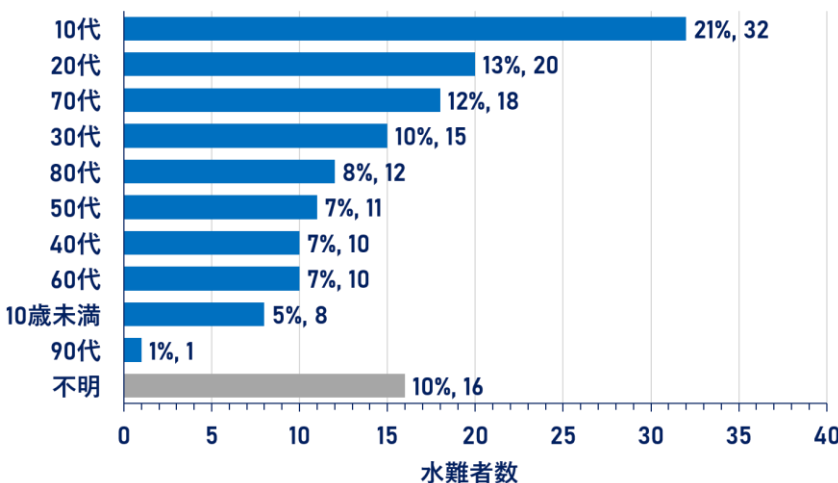
10代
60代

7月



10代/70代
50代

8月

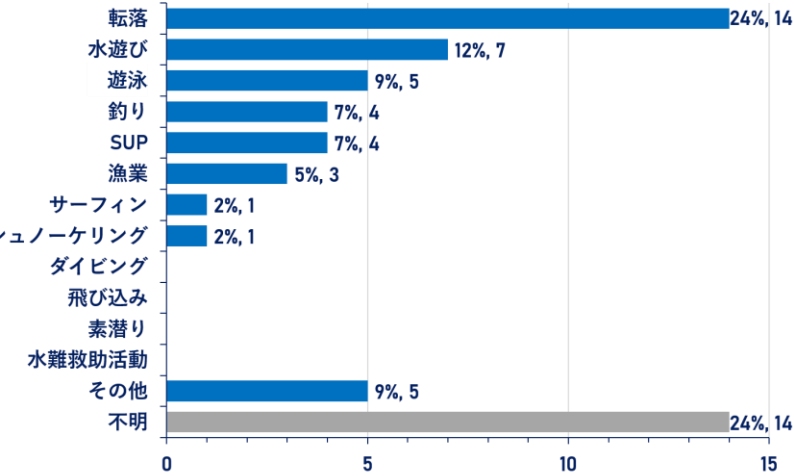


10代
20代

[3] 3ヵ月比較 (2026年6月, 7月, 8月対象)

行為は、6月は転落が最も多く、次いで水遊び、7月は遊泳が最も多く、次いで水遊び・釣り、8月は遊泳が最も多く、次いで水遊びであった。

6月



アクティビティTOP2

1



転落

24 %

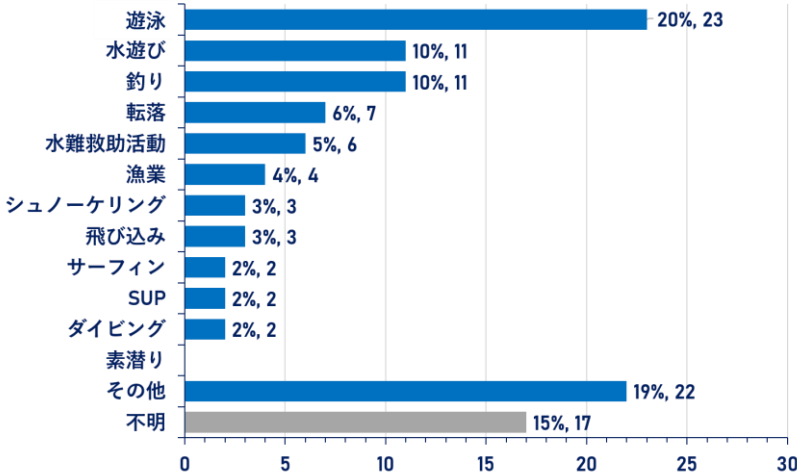
2



水遊び

12 %

7月



遊泳

20 %

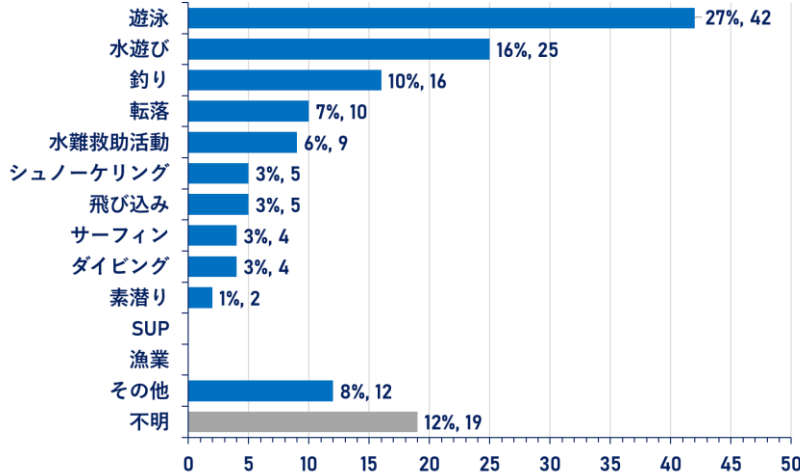
水遊び

10 %

釣り

10 %

8月



遊泳

27 %

水遊び

16 %

[3] 3ヵ月比較（2026年6月, 7月, 8月対象）

共通事項;

性別は, 3か月とも男性の事故が多く, 8割以上を占める.

年代は, 6月は10代が最も多く, 7月は10代・70代が最も多く, 8月は10代が最も多い. 3か月とも10代の事故が多い.

水難者数が多かった7/19, 8/9, 8/10, 8/11は, 台風の影響により各地で波浪注意報が発報されていた.

非共通事項;

水難事故数は, 2026年6月は58人, 7月は113人, 8月は153人であり, 8月が最も多い.

年代は, 3ヶ月とも10代の事故が多いが, 次いで多い年代は, 6月は60代, 7月は50代, 8月は20代であった.

水域は, 6月は河川が最も多く, 次いで海岸, 7月, 8月は海岸が最も多く, 次いで河川であった. 6月は河川での事故が多く, 7月, 8月は海での事故が多くなる.

行為は, 6月は転落が最も多く, 次いで水遊び, 7月は遊泳が最も多く, 次いで水遊び・釣り, 8月は遊泳が最も多く, 次いで水遊びであった. 7月, 8月で最も多い行為は遊泳で共通しているが, 3ヶ月で行為が異なる.